

鳥取県地震

2025年（令和7年）8月

鳥取地方気象台

目次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	2
(3) 地震・津波の知識	
推計震度分布図について	4

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

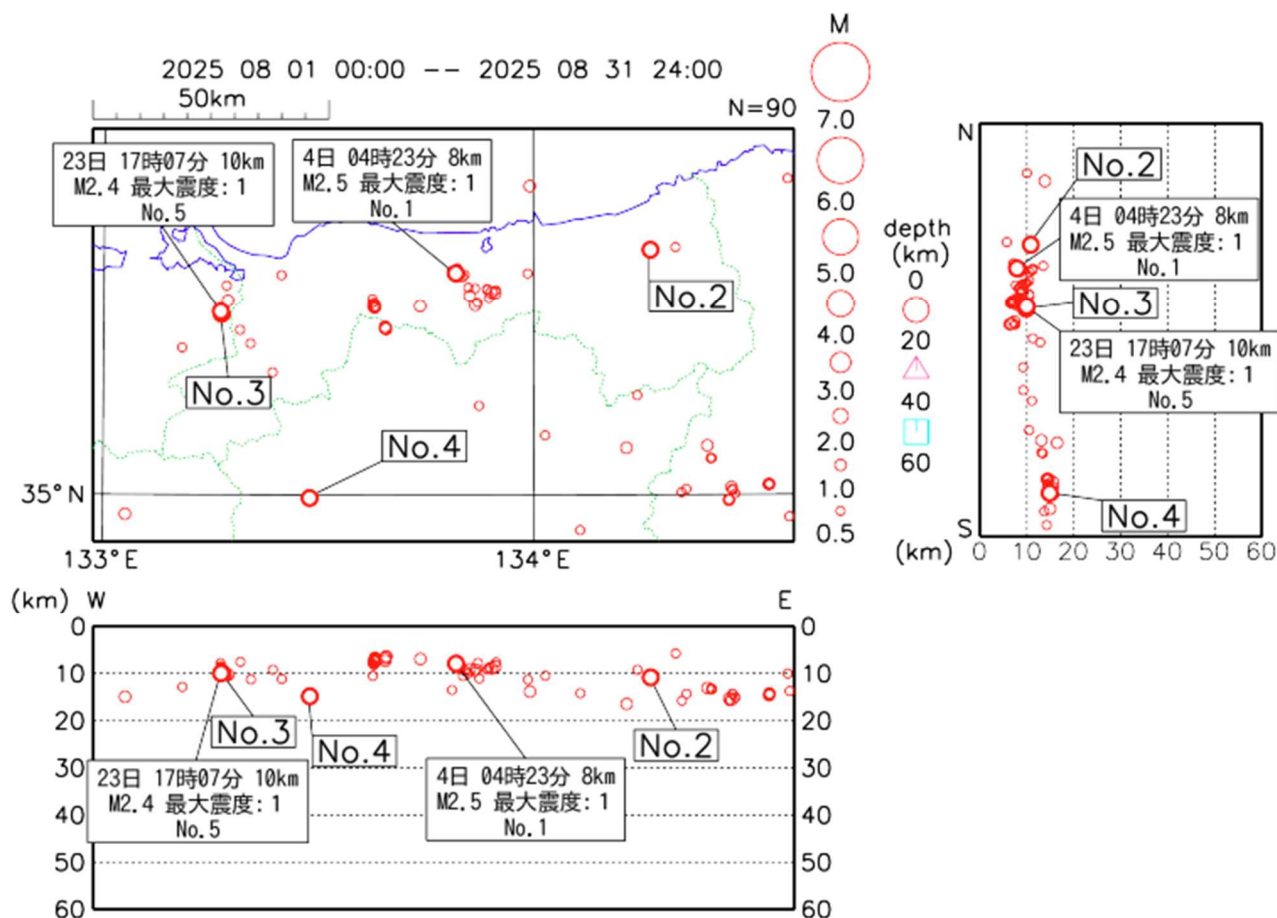
- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがあります。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。

大阪管内地震活動図URL https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos_monthly.html

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2025年8月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回（前月は1回）でした。

4日04時23分 鳥取県中部の地震（深さ8km、M2.5）により、鳥取県倉吉市・湯梨浜町で震度1を観測しました。

17日06時13分 日向灘の地震（深さ29km、M5.7：上図の範囲外）により、宮崎県美郷町・宮崎市・串間市・国富町で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。鳥取県内では境港市で震度1を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0以上の地震は5回（前月も5回）でした（番号は震源リストに対応）。

なお、23日17時07分に発生した地震（上図のNo.5）は島根県でのみ震度が観測されています。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

No.	発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニチュード	最大震度
1	2025年08月04日04時23分	鳥取県中部	35° 25.4' N	133° 49.1' E	8	2.5	1
2	2025年08月05日04時23分	鳥取県東部	35° 28.1' N	134° 16.3' E	11	2.1	—
3	2025年08月15日06時00分	島根県東部	35° 20.7' N	133° 16.4' E	10	2.1	—
4	2025年08月17日06時44分	岡山県北部	34° 59.6' N	133° 28.8' E	15	2.2	—
5	2025年08月23日17時07分	島根県東部	35° 21.0' N	133° 16.3' E	10	2.4	1

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震及び震度のリスト]

発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2025 年 08 月 04 日 04 時 23 分	鳥取県中部	35 ° 25.4' N	133 ° 49.1' E	8km	M2.5
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 倉吉市葵町*, 湯梨浜町久留*, 湯梨浜町龍島*					
2025 年 08 月 17 日 06 時 13 分	日向灘	32 ° 02.2' N	131 ° 56.1' E	29km	M5.7
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 境港市東本町, 境港市竹内町*					

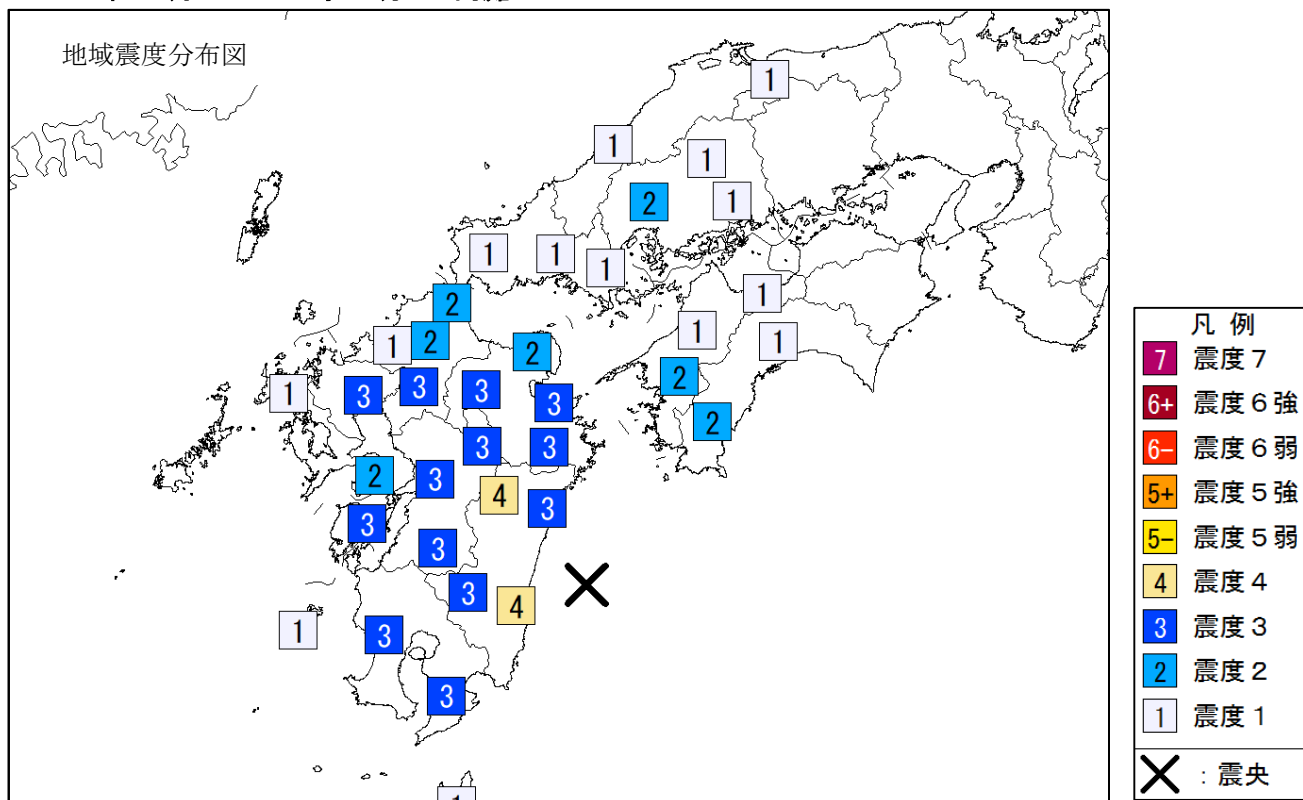
・*印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震の震度分布図 (図中×は震央)]

2025 年 08 月 04 日 04 時 23 分 鳥取県中部



2025 年 08 月 17 日 06 時 13 分 日向灘



(3) 地震・津波の知識

推計震度分布図について

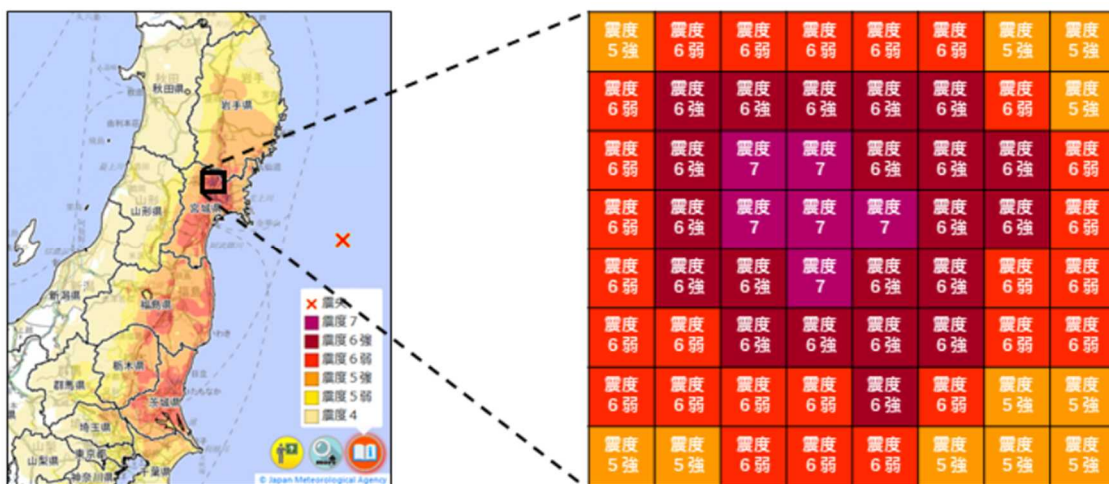
○推計震度分布図とは

軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅度^(注)の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を利用して震度計のない場所の震度を推計して面的な分布図で表現したものです。令和5年2月1日より、それまでの1kmメッシュ（平成16年3月1日～令和5年1月31日）から250mメッシュで震度を推計しています。

推計震度分布図では、震度の大きな地域がどのような広がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などといった揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な広がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください。

(注)：地表付近（地下の基準となる面から地表まで）における揺れの増幅を表す指標で、軟弱な地盤では大きな値に、固い地盤では小さな値になります。

メッシュ毎に推計される震度のイメージ



○発表基準

全国いずれかの震度観測点で震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を示します。

※ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な広がりが見られない場合などは推計震度分布図を発表しないことがあります。

○提供方法

地震発生後速やか（15分後を目途）に、推計震度分布図を地方公共団体等の関係防災機関に提供するとともに、気象庁ホームページにも掲載します。

・気象庁ホームページ：推計震度分布図（防災情報）

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#12/29.412/129.546/&contents=estimated_intensity_map

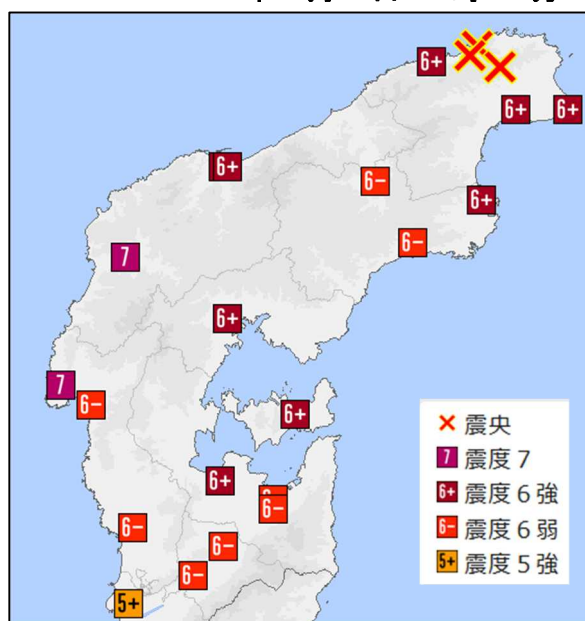
○推計震度分布図の利活用

推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図データに重ね合わせて掲載しますので（推計震度分布図（防災情報））、揺れが強かった地域を一目で確認できて、震度計がない地域の震度を速やかに把握することが可能です。

そのため、地震発生直後の応急対応すべき優先箇所の判別、迅速かつ適切な救難ルートを選定、避難場所の選定等に活用いただけます。

ある震度が推計された地域において、どのような現象や被害が発生すると想定されるかについては、気象庁震度階級関連解説表（ページ下部のリンク参照）をご参照ください。

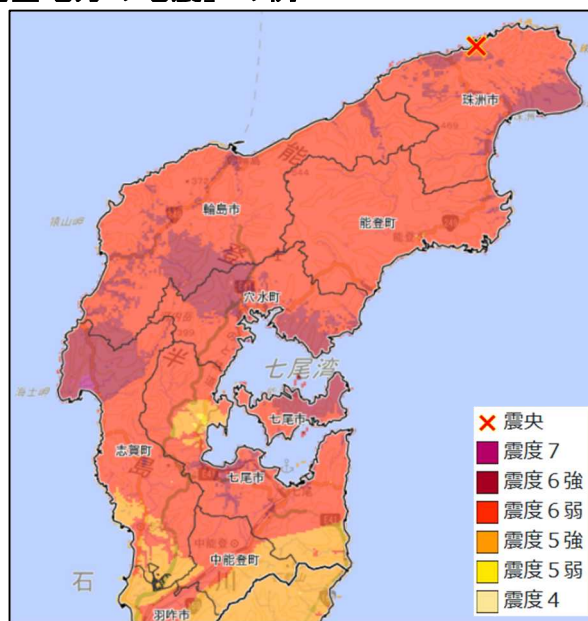
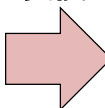
2024年1月1日16時10分「石川県能登地方の地震」の例



地点震度の分布図

※ほぼ同時刻に発生した地震であり、震度の分離ができないため、震央を複数記載。

面的に
変換



推計震度分布図（250m メッシュ）

（気象庁ホーム＞防災情報＞推計震度分布図）

○利用上の留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。

図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

参考：気象庁ホームページ

- ・ 知識・解説＞推計震度分布図について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/suikai/kaisetsu.html>

- ・ 知識・解説＞震度について＞気象庁震度階級関連解説表

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和7年8月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

U R L <https://www.data.jma.go.jp/egev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857－29－1313